

令和 8 年度 キックオフセッション

1 年目の振り返りと 2 年目の活動方針

苫前町地域おこし協力隊

Yuri Wakabayashi

2026/5/28

01 / 1年目の振り返り



ふるさと納税 / 特産 PR

- ・ 対面 PR、試食で反応を確認
- ・ 特産品の見せ方や導線を整理
- ・ 次回に再現できる運用を検討



関係人口 / 移住交流

- ・ 町内外イベントで接点づくり
- ・ 相談内容や関心テーマを把握
- ・ 継続的な関わり方を検討



デジタル基盤

- ・ SNS 発信の継続と改善
- ・ Notion で記録、議事録を整理
- ・ Discord 活用の準備

「現場理解」「関係づくり」「情報を残す仕組み」を整えた1年

02 / 1年目で見えた課題



イベントや発信で一度つながることはできても、その後の関係をどう続けるかが課題でした。

- 01 現場に入ると、資料だけでは分からない実情が見える
- 02 対面での会話は、町に関心を持ってもらう入口になる
- 03 SNSや記録は、続けるだけでなく活用できる形にする必要がある
- 04 町外の人が継続的に関われる場づくりが必要

2年目は、活動テーマを絞り、無理なく継続できる形をつくりま

03 / 2年目の活動方針



デジタルコミュニティづくり

苫前町に関心のある人が、情報を受け取り、対話し、継続的に関われる場をつくる。



農業のお手伝い

農家の方の作業を手伝いながら、苫前町の農業や季節ごとの仕事を知っていく。

04/ デジタルコミュニティで作りたい場



町内外の人が、苫前町とゆるく・継続的につながれる入口をつくる。

01 情報を受け取れる場をつくる

町の話題・イベント・日常を、わかりやすく発信する

02 気軽に反応できる場にする

質問・コメント・リアクションなど、参加のハードルを下げる

03 人とつながれる場にする

町内外の人がゆるく交流し、顔の見える関係をつくる

04 続けて関われる場にする

一度きりで終わらず、次の参加や関心につながる導線を整える

まずは、苫前町に興味を持った人が離れない仕組みをつくる。

05/ 進め方

小さく始めて、運用しながら改善する。



作って終わりではなく、続けられる形に整える。

06 / まとめ



**2年目は、活動を広げすぎず、
続けられる形をつくる1年に。**

デジタルコミュニティ

町内外の人が、情報共有・対話・参加へ進める場を整える。

農業のお手伝い

農家の方の作業を手伝い、苫前町の農業を現場から理解する。

記録と発信

活動で得た学びを残し、次の活動に活かせる形にする。